大子町における小規模事業者の

景況調査報告

平成 29 年 1 月～

令和元年 12 月

大子町商工会

目的：

大子町の小規模企業者の景況感を継続して調査することで、大子町における小規模企業者全体で景況感を共有することを目的とする。

方法：

製造業・建設業、小売・卸売業、サービス業（飲食店等を含む）からサンプルの小規模企業者を約 30 社選び、四半期ごとに景況感の聞き取り調査を行う。聞き取り方法は、直接面接もしくは電話にて行う。

調査期間は平成 29 年 1 月～平成 33 年 12 月までとし、四半期ごとに景況感をまとめ、年 2 回報告する。

対象事業者：

大子町にて事業を行っている小規模事業者

調査項目：

① 売上高、販売単価、粗利益、資金繰り、人材確保、景況感、風評被害について前年度同時期と比較した。
② 調査期間における設備投資の有無、および、今後の設備投資の予定を調査した。
③ 大子町で事業を行う上で、現在認識している課題・問題点を調査した。

調査属性

製造業（食品加工業を含む）	6 社
建設関連業	6 社
小売業（卸売業を含む）	9 社
サービス業（飲食、観光含む）	10 社

事業者の規模

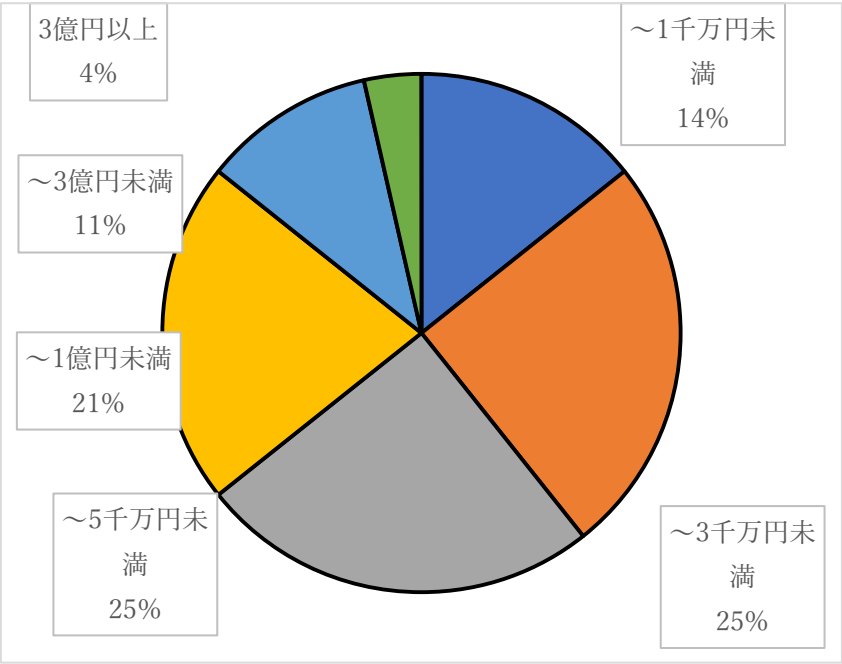

図１売上規模による事業者の調査割合

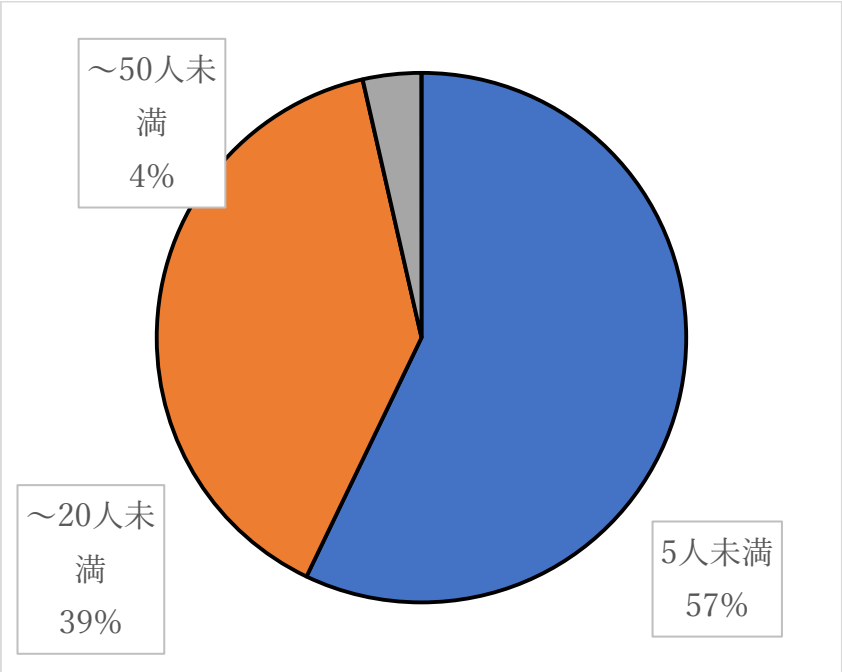

図２　従業員規模による事業者の割合

１．景況感について

大子町では、令和元年に入ってから、産業全体に不景気懸念が強くなりましたが、令和1年10月の台風19号の被災を受けてから、不景気感がさらに強くなりました。

しかし、災害等があった時の特徴でもある建設関連業の売上が良くなっています。建設業は平成30年ころに好調の時期もありましたが、令和1年になり低迷し、災害により回復傾向にあります。ただし、粗利益としては、けして良いとは言えない結果となっています。

製造業は、国内の景気を反映し低迷を続け、小売業・サービス業は町内の景気の影響を受け低迷を受けています。災害後はけして良い状況であるとは言い難いようです。

。

表１　令和元年10月～12月間のＤＩ※1

	売上高	販売単価	粗利益	資金繰り	人材確保	景況感	風評被害
製造業 (食品加工含む)	▲ 50.0	▲ 16.7	▲ 66.7	0.0	▲ 16.7	▲ 50.0	16.7
建設関連業	33.3	16.7	▲ 16.7	0.0	0.0	▲ 16.7	0.0
小売業 (卸売業含む)	▲ 55.6	▲ 44.4	▲ 44.4	▲ 33.3	▲ 22.2	▲ 33.3	▲ 11.1
サービス業 (飲食、観光含む)	▲ 60.0	▲ 20.0	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 60.0	10.0
全業種計	▲ 38.7	▲ 19.4	▲ 32.3	▲ 16.1	▲ 16.1	▲ 41.9	3.2

※１　ＤＩ（Diffusion Index：業況判断指数）

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものを%ポイントで表した景気の判断指数の一つです。プラスは良くなった。マイナスは悪くなった。と、とらえることができます。

大子町における、業種別、項目別のＤＩの推移を以下に示します。

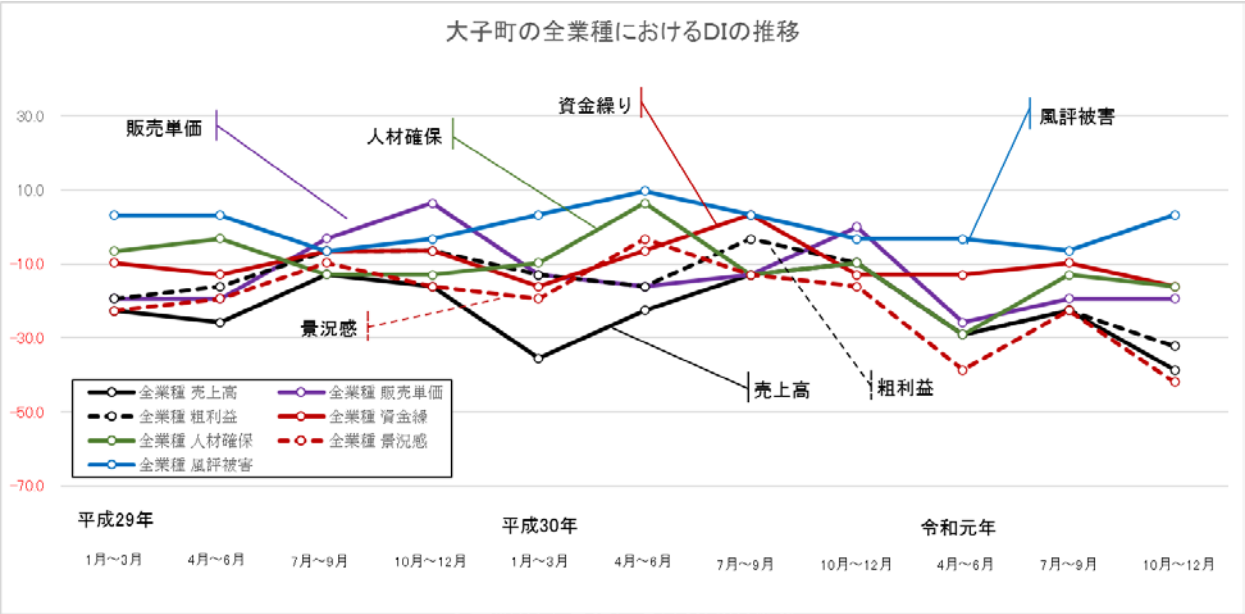

図１　大子町の全業種におけるＤＩの推移

大子町では、3.11 の災害からの風評被害の影響がなくなったと感じる方がいなくなったようです（実際に風評被害の影響は続いています）。

今回の調査では、すべての指標がさらに低下しました。特に、景況感に不安視する事業者が多いようです。平成 30 年 11 月の米中貿易戦争、令和元年 4 月は年金後 2 千万円問題があり、関係あるのかどうか不明ですが影響はあるのかと思います。台風 19 号の影響が景況感をさらに低下させています。

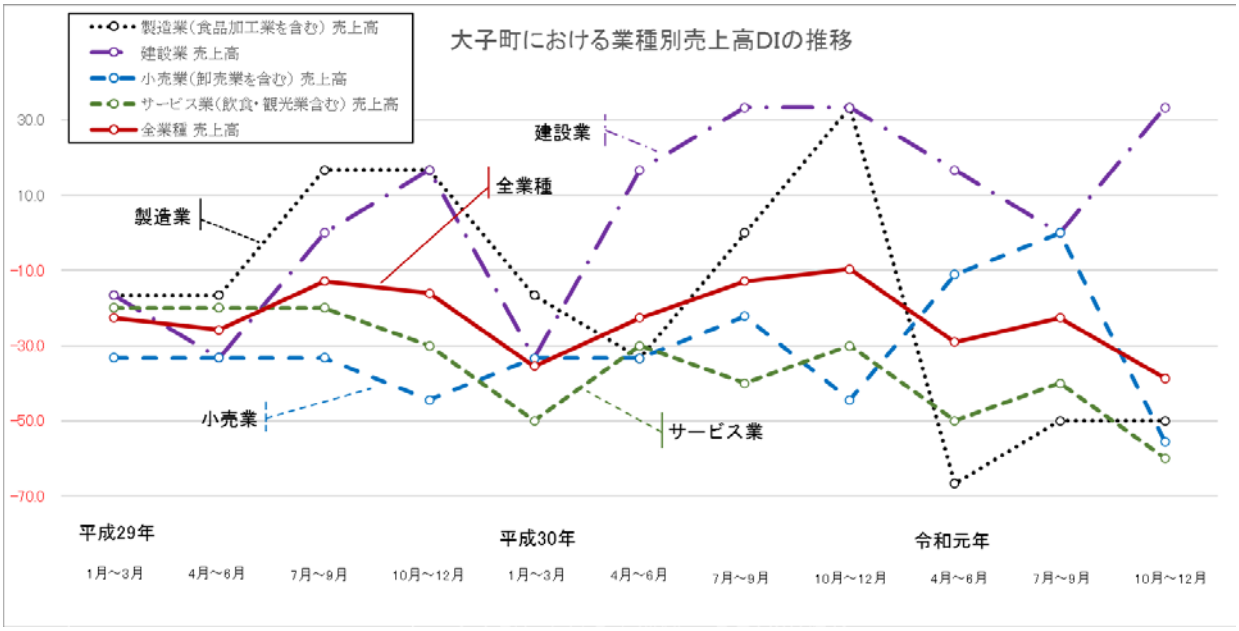

図２　大子町における業種別売上ＤＩの推移

台風 19 号による小売業、サービス業などの売上低下が激しいようです。ただし、建設業には仕事が回っています。

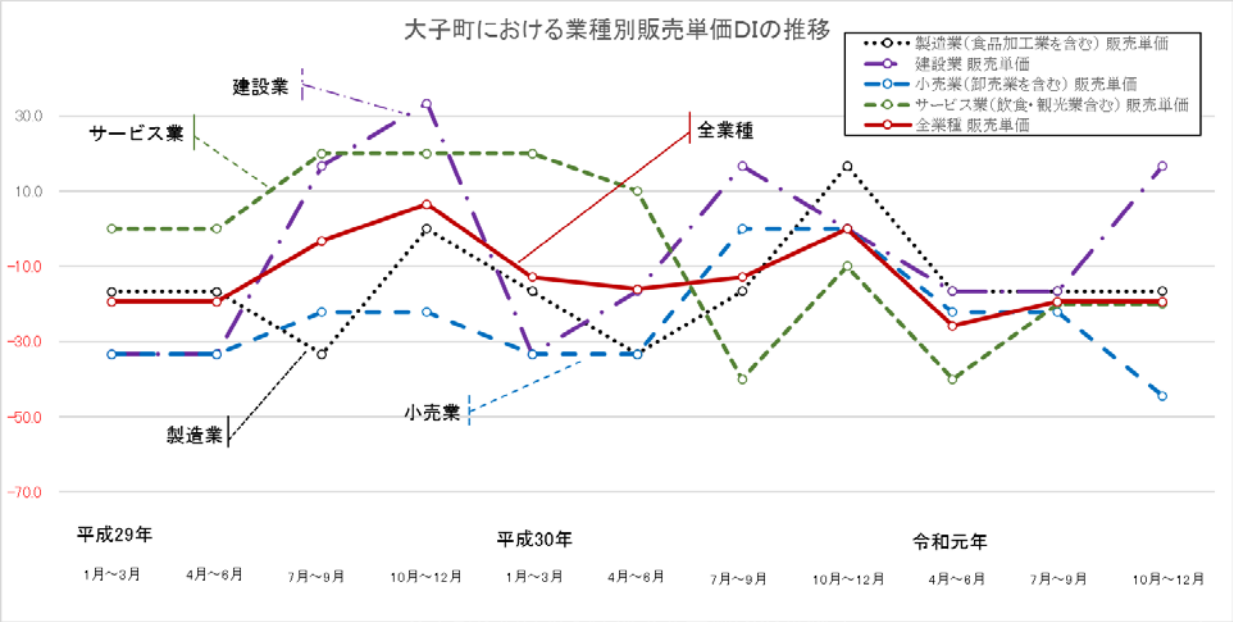

図３　大子町における業種別販売単価ＤＩの推移

平成 29 年～30 年にかけてすべての業種で販売単価の上昇がみられました。しかしながら令和元年になってからは、景気の低下と共に販売単価の下落が感じられます。足元では建設関連の業者が好調です。

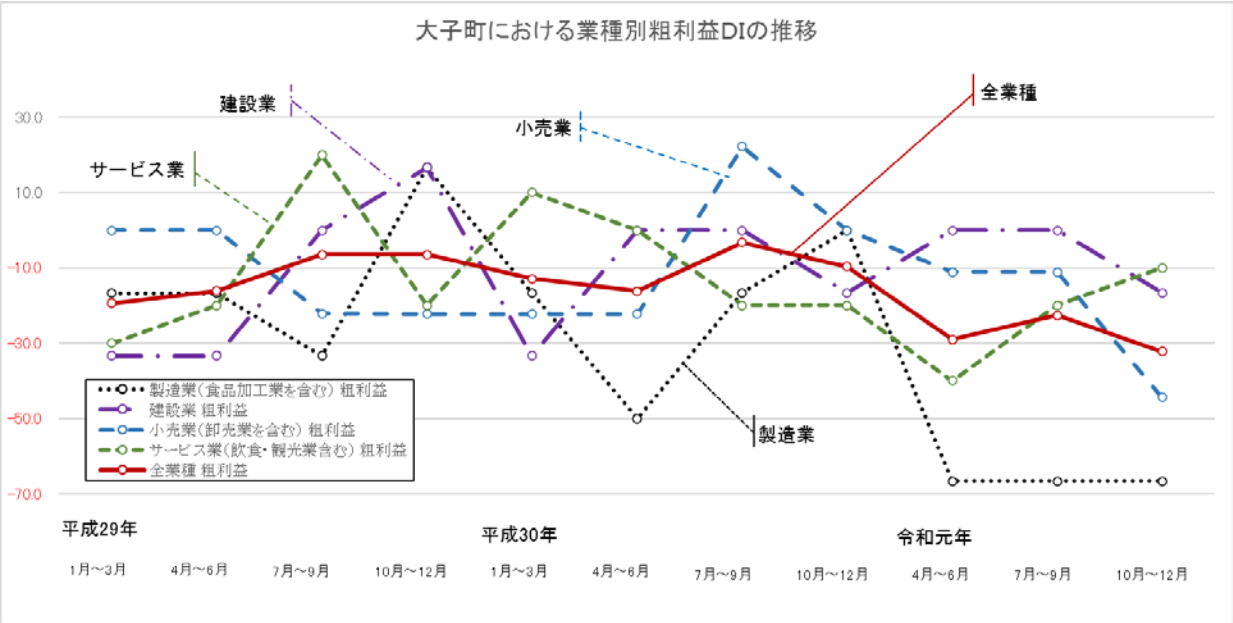

図４　大子町における業種別粗利益ＤＩの推移

平成 29 年～30 年にかけて単価を上げることができた小売業やサービス業（飲食店など）の利益がよかった時期もありましたが、徐々に下がりつつあるのが現状です。これは、３．小規模事業者の課題意識のところでも述べますが、仕入れ価格や人件費の高沸が原因になっているようです。

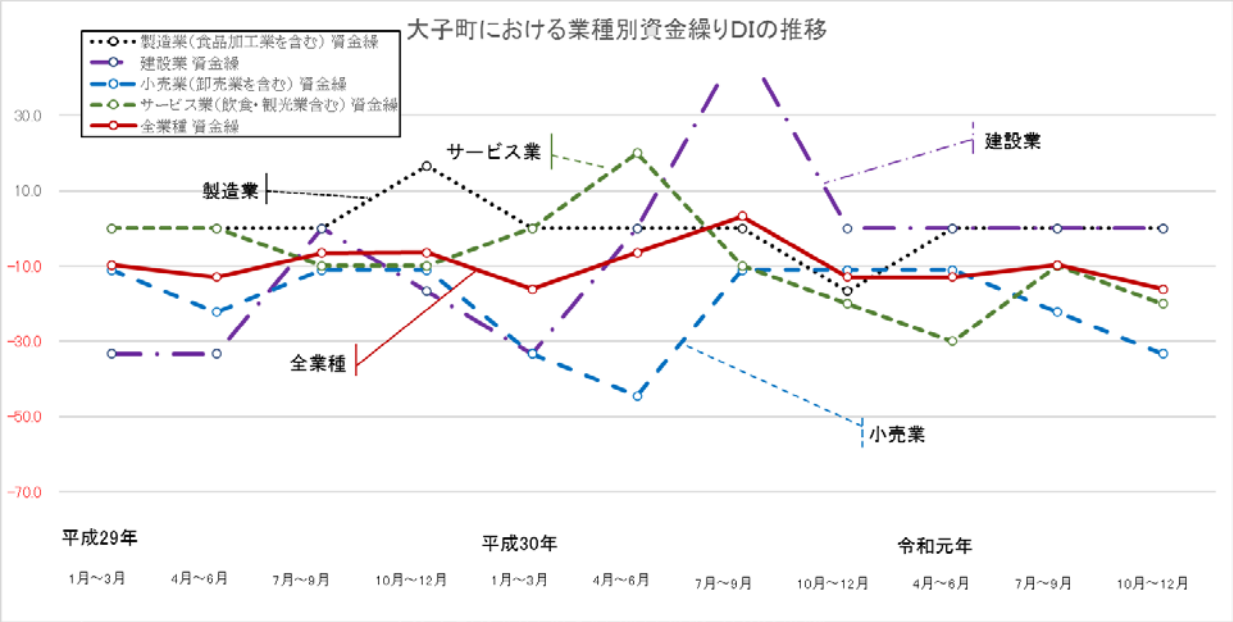

図５　大子町における業種別資金繰りＤＩの推移

資金繰りに関しては、業種を問わず落ち着いてきましたが、台風 19 号の被害を受けてから軒並み低下傾向を示しています。

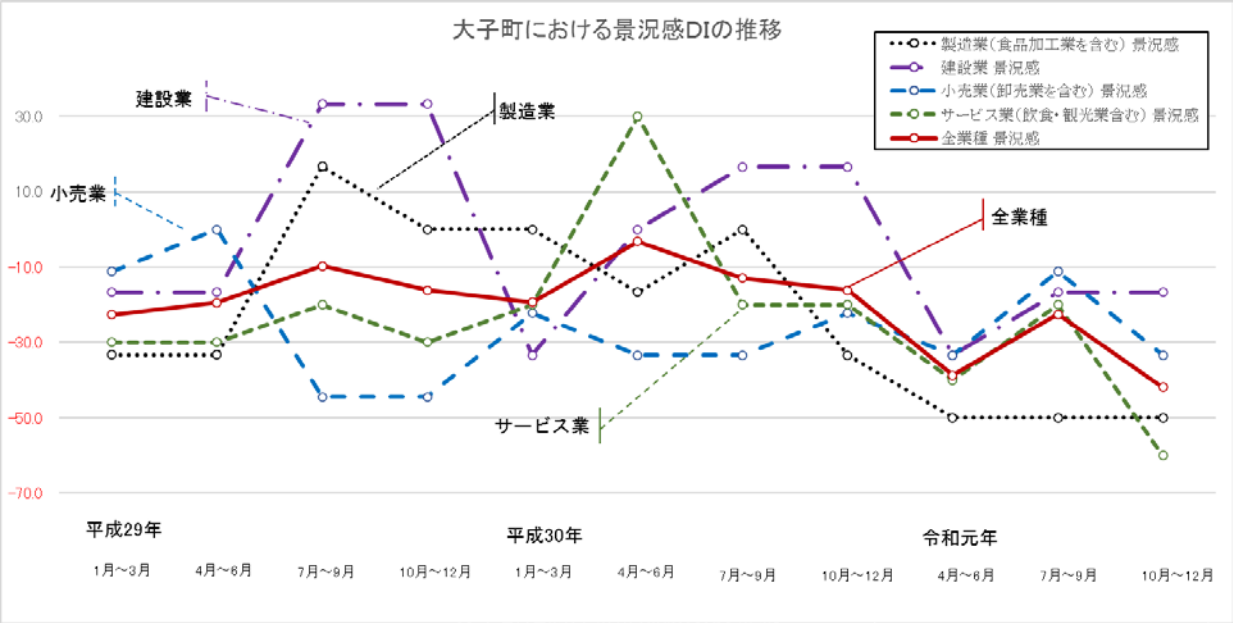

図６　大子町における景況感ＤＩの推移

平成 30 年半ばまでは、悪いながらも建設業や製造業が後押しをする形で好景気が維持できていました。それ以降は下がる一方であり災害を受けて過去最低の水準になっています。

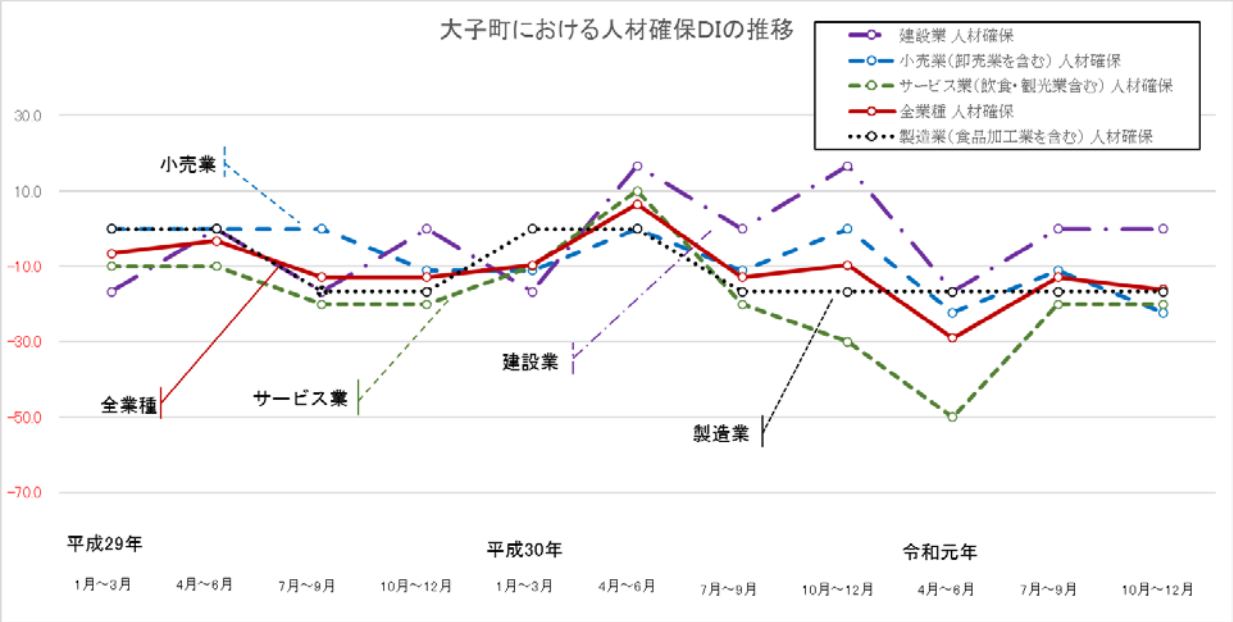

図７　大子町における人材確保ＤＩの推移

大子町の調査では、人材不足感が他の地域に比べて低いように感じます（それほど深刻ではない）。事業所の規模が小さいためか？（家族経営が多いため？）、景気が悪く人が不要なのか？　は、判断できません。両方の可能性も否定できないと思います。

2.　設備投資に関して

令和元年に入り設備投資の意欲が著しく減少しました。特に台風被災後は設備投資の意欲が著しく落ちました。

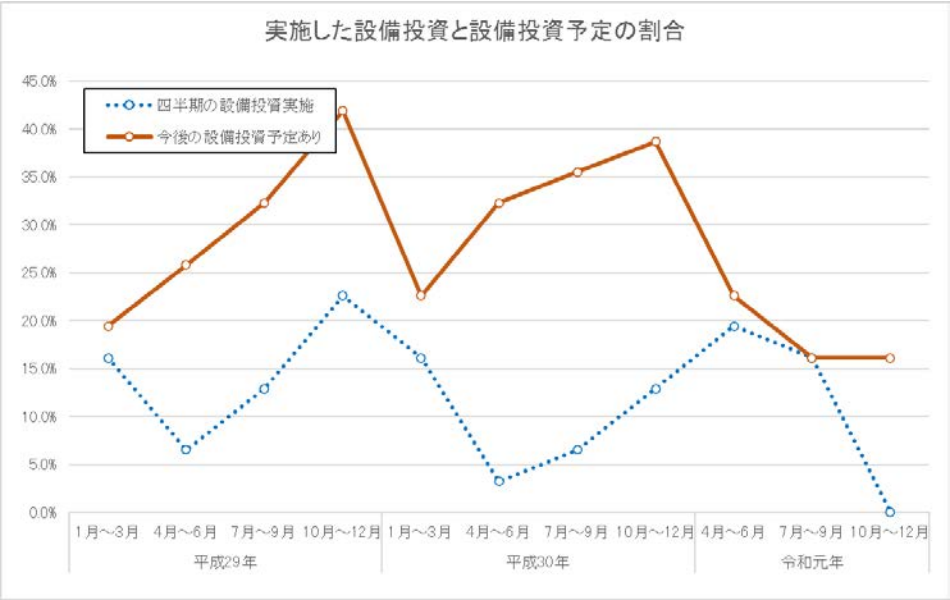

図８　今後設備投資を行う予定のある事業者と、各四半期に設備投資を実施した割合

3.　小規模事業者の課題意識について

調査開始当初と１年後、直近の課題意識の違いを比較してみました。

大きく変化したと思われるのは、「需要の停滞・売上の伸び悩み」、「仕入れ・原材料価格の上昇・入手難」、「仕入・材料費・人件費以外の経費の増加」といった、売上の割に、仕入れ価格や経費が上がってしまっていることが課題になっています。これは、前述した粗利益 DI の変化にもつながり、すべての業種で単価を上げたために、利益額が低下してしまった状況が発生しています。インフレーション懸念というよりも、スタフグレーションンの懸念があるのではないでしょうか。

また、災害後、「生産設備の不足・老朽化」を訴える企業が減少しました。被災を受けてしまったことも考えられます。

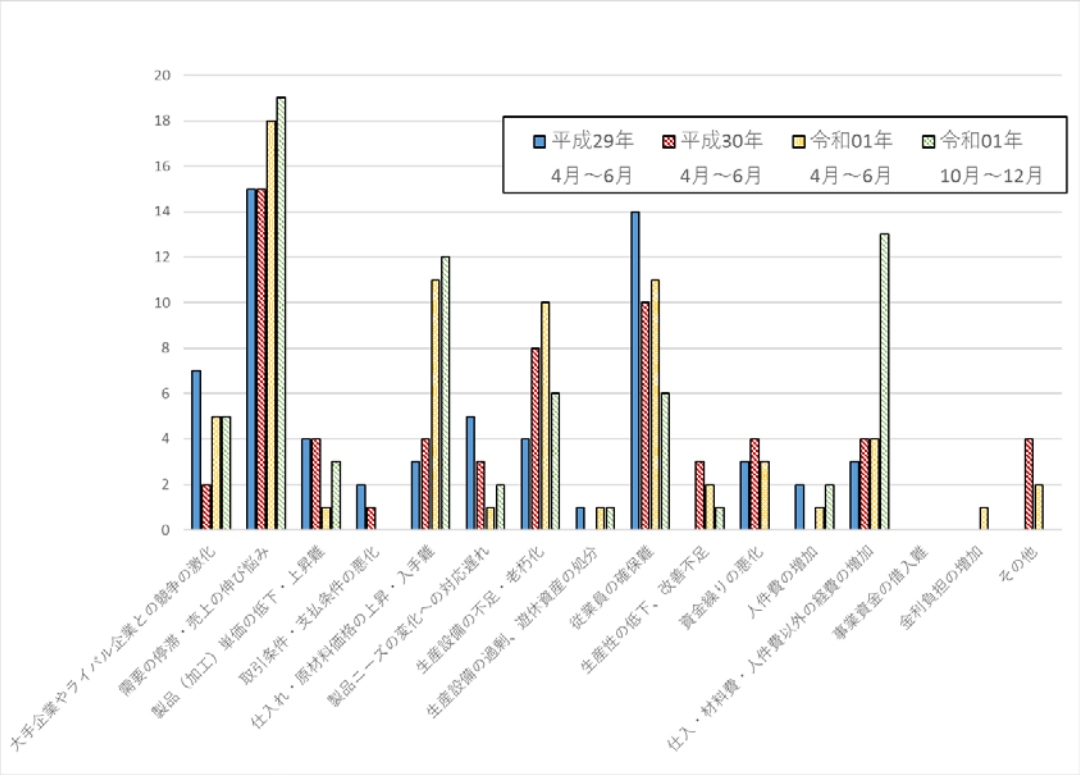

図９　大子町における小規模事業者の課題意識